

吉田 彦 郎 ひこ 小説家、劇作家、隨筆家。明治十九年十一月二十  
四日佐賀縣生れ、昭和二十一年四月二十一日没（二八六—一九六）。本名  
源次郎。明治四十四年早稻田大學文學部英文科卒。ユニテリヤン協會  
に入り、『六合雜誌』編輯に從事、傍ら『早稻田文學』に寄稿。大正五  
年早大講師。『吉田彦郎全集』全十六卷（昭和八年一月五日—七年  
八月十五日、第一期全十八卷・九年五月—十九日—二十一年三月十九日  
新潮社）、『吉田彦郎感想選集』全十卷（昭和十四年二月十八日—  
十五年十月—二十一日新潮社）等。

著書『心より心へ』（大正八年一月七日大同館書店、再刊・昭和十二  
年三月二十日新潮社「新潮文庫」）、『人間苦』（大正九年一月十五  
日新潮社、再刊・昭和九年一月二十九日「新潮文庫」、二十一年六月  
十五日中根書房）、『大地の涯』（大正九年五月十五日新潮社）、『無  
限』（大正九年十一月十五日新潮社、再刊・昭和八年五月十五日「新  
潮文庫」）、『草路』（大正十年六月十日春陽堂「新興文藝叢書」）、  
『小鳥の来る日』（大正十年七月十五日新潮社、再刊・昭和八年四月  
十日「新潮文庫」、二十五年一月十日中根書房、三十一年七月五日  
「新潮文庫」）、『光落日』（大正十年十一月十五日新潮社）、『麥  
の丘』（大正十一年四月十八日大同館書店）、『白路』（大正十一年  
六月五日新潮社）、『マダビデと子たち』（大正十一年九月九日改造



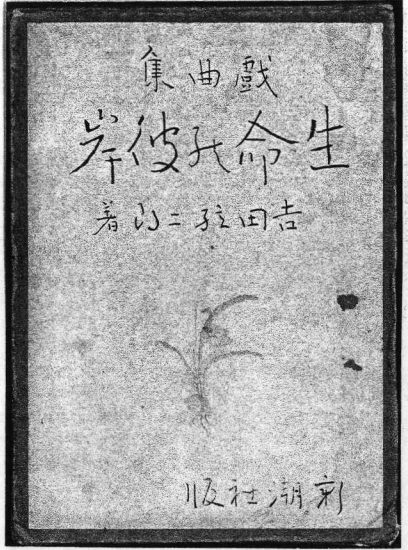
社）、『花枕』（合著・後藤誠雄編、大正十一年一月  
月二十日聚英閣「現代傑作選集」）、『草光る』

（大正十二年五月十四日新潮社、再刊・昭和八年八  
月二十五日「新潮文庫」、二十四年十一月五日中根書房）、『早稻田

文藝大觀・第一卷「小説集・上巻」(合著・長谷川天来、片上白鳥、神編、大正十一年八月五日實業之日本社)、可砂の描く (大正十二年九月十一日新潮社)、可木の笑う (大正十四年二月十日新潮社、再刊・昭和九年六月一日「新潮文庫」、二十四年十一月五日中根書房)、可少年の頃・中巻 (合著・山野誠悟編、大正十四年五月二十日第一出版協會、可少年少女文學叢書)、可山寒し (大正十四年九月十日新潮社)、可父 (大正十五年二月十二日改造社)、可高原の日記 (大正十五年五月四日新潮社、再刊・昭和十一年十月二十日「新潮文庫」、可霧かほる土 (大正十五年七月二十五日新潮社、再刊・昭和十五年十月一日「新潮文庫」、可地心めれば (昭和二年二月八日新潮社)、可増訂、可雑草の中 (昭和二年六月一日新潮社)、可旅人 (昭和二年六月二日改造社)、可白日の夢 (昭和二年十月十五日新潮社)、可戯曲集

「生命の彼岸」(昭和二年七月七日新潮社)、可日本八景 (内題「日本八景紀行」合著・大阪毎日、東京毎日、新聞社編、昭和二年八月一日大阪新聞社)

・大阪毎日新聞社、可わが詩わが旅 (昭和二年十一月一日早稲田大學出版部。再刊・九年十月十五日新潮社「新潮文庫」、二十四年二月二日中根書房)、二十二年六月十五日「新潮文庫」、可吉田悠一郎篇 (昭和二年十一月一日新潮社「現代長篇小説全集」)、可吉田悠一郎深澤集 (昭和二年十一月十日新潮社「新潮文庫」)、可吉田悠一郎詩・感想集 (昭和四年二月十七日新潮社「新潮文庫」、可靜



・大阪毎日新聞社、可わが詩わが旅 (昭和二年十一月一日早稲田大學出版部。再刊・九年十月十五日新潮社「新潮文庫」、二十四年二月二日中根書房)、二十二年六月十五日「新潮文庫」、可吉田悠一郎篇 (昭和二年十一月一日新潮社「現代長篇小説全集」)、可吉田悠一郎深澤集 (昭和二年十一月十日新潮社「新潮文庫」)、可吉田悠一郎詩・感想集 (昭和四年二月十七日新潮社「新潮文庫」、可靜

夜曲』(昭和四年六月十五日新潮社、再刊・九年一月二十五日「新潮文庫」)、『青鳩』(昭和四年九月二十一日新潮社)、『山家日記』(昭和四年十一月一日早稲田大學出版部、再刊・九年十一月十一日新潮社)、『新潮文庫』、二十五年一月二十日中根書房)、『霧嶋紀行』(昭和五年二月十日改造社)、『台雲飛ぶ』(昭和五年五月二日新潮社)、『孤獨なる女』(昭和五年九月十七日新潮社)、『長篇文庫』、『芭蕉・夜船・草の詩』(昭和五年十月十日改造社)、『改造文庫』、『春の白』(昭和五年十一月十五日新潮社、再刊・十年十一月一日「新潮文庫」、二十五年二月二十日中根書房)、『思想の朝』(昭和七年八月十九日改造社、再刊・二十四年六月一日中根書房)、『G線上のロマンス』(昭和七年九月二十一日新潮社)、『吉田孝二郎童話全集・第二卷―幸福な地平線』(昭和七年十一月十五日改造社)、タギー著「タギーの詩と言葉」(譯、昭和七年十二月二十五日春陽堂)、『世界名作文庫』、感想集『煙れる田園』(昭和八年二月十一日新潮社)、『微風の朝』(昭和八年五月十一日新潮社)、感想集『草の葉は歌ふ』(昭和八年六月二十一日改造社、再刊・二十二年七月二十五日美和書房)、『落葉集』(昭和九年一月二十五日日本青年館)、『行人記』(昭和九年六月二十日改造社)、少年少女小説集『白き雲のうしろ』(昭和九年八月十八日改造社)、『春の逃げ水』(昭和九年十一月二十八日新潮社)、『小童とマンリン』(昭和十年二月二十日改造社)、『秋の朝』(昭和十年九月十九日改造社)、『青年戯曲集』(合著・大日本聯合青年團編、昭和十年十月十日日本青年館)、感想集『梅の咲くころ』(昭和十年十一月二十七日新潮社)、戯曲集『條城の清止』(昭和十一年

一月二十一日新潮社）、『青鷲』（昭和十一年五月二十五日大日本雄辯會講談社）、『華の歌』（昭和十一年八月十九日改造社）、『生  
の悲劇』（昭和十一年十一月二十五日新潮社「新潮文庫」）、『童話集  
』、『鳥の家』（昭和十二年一月二十日新潮社）、『感想集』、『旅のくこ  
』、『昭十二年六月十日新潮社）、『生命の微光』（昭和十二年  
七月一日新潮社「新潮文庫」）、『島の秋』（昭和十二年二月九日新  
潮社「新潮文庫」）、『好日旅行』、『旅の隨筆集』（合著・大草實論、  
昭和十二年四月二十五日矢の倉書店）、『感想集』、『我れひとの思ふ』（昭  
和十二年八月八日新潮社。再刊・二十五年二月二十日中根書房）、『山  
遠ければ』（昭和十二年六月二十日第一書房。再刊・小説『山遠けれ  
ば』二十二年九月二十日第一書房）、『わが旅の記』（昭和十二年八  
月五日第一書房。再刊・二十二年二月十日新藤書店）、『祖國認識の  
旅』（合著、昭和十二年十一月（ペン・ソックス・トビエロー））、『感想集』、『人生通  
路』（昭和十五年一月十九日改造社。再刊・二十四年八月五日美和書  
房）、『おくのほろ道の記』（昭和十五年五月二十日實業之日本社）、  
『戯曲集』、『善人村』（昭和十五年六月十五日日本青年館）、『わが文學  
論』（昭和十五年十月二十日第一書房）、『一學年別・新選童話集』（六  
年生）、『白く雲青く鳥』（昭和十六年二月二十日新潮社）、『江戸最後の  
日』（昭和十六年十一月十五日第一書房）、『續わが旅の記』（昭和  
十七年二月十五日第一書房）、『乃木將軍』（昭和十七年四月十三日  
新潮社）、『靜かなる思惟』（昭和十八年一月八日新潮社。再刊・一  
十一年十一月二十日中根書房）、『感想集』、『大いなる朝』（昭和十八年  
一月二十日改造社）、『孤島・土様の背中』（内田百閒合著・昭和

十八年二月十五日新潮社「日本童話名作選集」(昭和)

二十一年二月二十日八雲書店(再刊)二十二年八月二十日齋藤書店(

武蔵野記』(昭和二十一年七月十五日船形書院)、『萬古の天』(昭

和二十一年八月二十日小學校「少國民シリーズ」(隨筆)『風流・第

一輯』(合著)『昭和二十一年九月十日風流社』、『良寛』(昭和

二十一年十一月十五日愛育社「愛育文庫」(『旅の町旅の人』(昭

和二十二年八月五日萬葉出版社)、『旅より旅へ』(昭和二十二年八

月十日齋藤書店)、『童話集』(『いたりの出る畑』(昭和二十二年十月十

日船形書院)、『山河の思ふ』(昭和二十二年十一月二十日齋藤書

店)、『童話集』(『小犬と小鳥』(昭和二十二年九月二十日萬葉書房)、『

少女』(『美しき虹』(昭和二十二年十一月十日東光出版社)、『ふる

さとの友』(昭和二十四年一月二十日蓄成社)、『詩まてのたはぬ詩人』

(昭和二十四年二月二十日(再刊)二十五年十月二十日萬葉書房)、『

名作 物語』(『アルプスの少女』(昭和二十四年六月二十日大日本雄辯會講談

社)、『生命の微光』(内題「生命の微光・生くる日の限り」(昭和二十

四年七月二十日中根書房(再刊)二十六年八月十五日長野・中根書

房)、『文章の作り方と味ひ方』(昭和二十四年十月二十日(再刊)・

十一月二十日萬葉書房)、『わが読書と思想』(昭和二十四年十一月

二十日萬葉書房)、『人生旅情』(昭和二十五年九月二十日中根書

房)、『萬葉抄』(昭和二十六年二月二十日長野・中根書房)、『古

田の歌』(『歌作品集・第四卷』(伊藤藤一編)昭和二十六年七月十五日萬

葉出版社)、『光の生活』(昭和二十一年十月二十日新潮社)等。